

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育研究)

法人名 国立大学法人熊本大学

学部・研究科等名

教育学部・教育学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 研究成果の状況

教育学部・教育学研究科では、教員養成に関わる高度で実践的な学術研究の中核としての機能を高めるという目的を達成するために、実践的、学際的、現代的な教育課題に対応した学術研究を進めているところであるが、近年著しい研究成果を蓄積してきた。平成 16～19 年度の 4 カ年に「SS」として 2.5 件判定（7 件申請）されたのに対し、平成 20・21 年度の 2 カ年で新たに 7 件を「SS」として申請できる状況が生まれた。その概要は、下記のとおりである。

まず、教科教育学に関わる研究領域（細目番号 4003）では、平成 18 年に出版された河野順子（国語教育学）『<対話>による説明的文章の学習指導—メタ認知の内面化の理論提案を中心に—』が、平成 21 年全国大学国語教育学会誌『国語科教育』第 65 集に取り上げられ、社会構成主義を土台にした学習者の側からの認知・認識形成の学習指導実践理論として高い評価を得た。梅田素博（美術教育学）の「蠱惑の世界 08—Ⅱ」・「蠱惑の世界 08—Ⅲ」、「蠱惑の世界 09—Ⅱ」・「蠱惑の世界 09—Ⅲ」は、国際写真家協会公募展（IPA 国際写真家協会主催、文部科学省・外務省・大韓民国・中華人民共和国等後援）の第 28 回（平成 20 年）、第 29 回（平成 21 年）でそれぞれ「駐神戸韓国総合教育院賞」、「FSUN 国連支援交流協会賞」を連続受賞した。國枝春恵（音楽教育学）の「ソプラノ、ハープ、オーケストラのための『地上の平和』」は、平成 21 年、国際現代音楽協会主催「世界の音楽の日々」スウェーデン大会で採択された 111 曲（世界 45 カ国）に入選し、ヨーテボリ歌劇場管弦楽団による演奏会は新聞等で大きく報道された。

また、スポーツ科学に関わる研究領域（細目番号 1402）では、平成 21 年、大石康晴（保健体育学）が発表した 3 つの共著論文が申請対象である。第 1 は、学術誌 Mech Ageing Dev (Impact Factor 3.915) に掲載された免疫組織化学的観点及びタンパク質の発現レベルの観点から老齢による骨格筋委縮のメカニズムを分析した論文、第 2 は、学術誌 J Appl Physiol (Impact Factor 3.658) に掲載された骨格筋の再生筋線維の成長・発育に対する熱ストレスの効果に注目し筋衛星細胞の活性化メカニズムを解明した論文、第 3 は、学術誌 Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol (Impact Factor 3.272) に掲載された HSP70 の応答データの生化学的分析によって短時間・高強度トレーニングと長時間・持久性トレーニングの比較研究を行った論文である。いずれも高い Impact Factor をもつ学術誌であり、また、新課程（生涯スポーツ福祉課程）をもつ熊本大学教育学部の学際性、独創性の成果といえることができる。

上記のとおり、平成 20・21 年度の教育学部・教育学研究科における研究成果の状況は、期待される水準を大きく上回るものであり、その状況については極めて顕著である。